

平成20年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2 0 0 9

新潟県長岡市教育委員会

平成 20 年度
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2009

新潟県長岡市教育委員会

例　　言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立つて実施した試掘・確認調査のうち、平成20年度国庫・県費補助金の交付を受けて実施した調査の報告である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、1を田中、その他は各調査担当者が分担した。編集は新田が行った。図版などの作成は一部で整理作業員の協力を得た。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方からご協力、ご教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。
越後ながおか農業協同組合 大手通中央東地区市街地再開発組合 小国土地改良区
小国西部地区は場整備推進委員会 株式会社第四銀行長岡支店 東坂之上町1丁目町内会
宮本4丁目は場整備推進協議会 長岡地域振興局地域整備部と板維持管理事務所
長岡地域振興局農林振興部農地整備課 三島郡北部土地改良区
三条地域振興局農業振興部農地整備課 富島地区圃場整備協議会 中之島土地改良区
石坂主介 駒形敏朗

目　　次

1	平成20年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2	寺泊潟地区試掘・確認調査	4
3	島崎地区試掘調査	6
4	中之島南部地区確認調査	7
5	中之島中部地区確認調査	8
6	根立遺跡確認調査	10
7	富島地区確認調査	20
8	下屋敷遺跡確認調査	22
9	宮本広沢地区試掘調査	24
10	柳堀地区確認調査	25
11	長岡城跡（厚生会館地区）確認調査	26
12	長岡城跡（大手通中央東地区）確認調査	27
13	浦地区確認調査	28
14	小国西部地区試掘調査	29

1 平成 20 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

(1) はじめに

長岡市は、新潟県のほぼ中央部に位置しており、「長岡」「中之島」「越路」「三島」「山古志」「小国」「和島」「寺泊」「棚尾」「与板」の 10 地域で構成されている。現在の行政面積は 840.9 km² および、約 28 万人の人々が暮らす中越地方最大の都市である。

地形的には、市の中央部を日本一の大河「信濃川」が縱貫し、その両岸には肥沃な沖積平野が形成されている。平野部の東西には、東山丘陵および西山丘陵と通称される東頭城丘陵が、それぞれ連なる。東山丘陵の東、棚尾地域の南東方面には、越後山脈に属する標高 1,537m の守門岳がそびえる一方、市域の北側の寺泊地域では、日本海に面して約 16km の南北に伸びる海岸線を持つ。

このように長岡市の地形は、山岳地帯から丘陵・平野・海岸部に至る、非常に変化に富んでいる点に特徴がある。その地勢的な要因から、それぞれの地域によって特色ある歴史・文化が育まれてきた。

長岡市内には、1,300 箇所近い周知の遺跡が所在し、この中には、「馬高・三十稻場遺跡」「藤橋遺跡」「八幡林官衙遺跡」という、3 箇所の国史跡が含まれている。

馬高・三十稻場遺跡は、火焔土器の出土品として知られており、土器編年用いられる「馬高式」と「三十稻場式」の型式名は、本遺跡にちなんでつけられた。

藤橋遺跡は、縄文時代晩期を中心とする大きな集落跡である。

本遺跡からは、明治以降おびただしい数の玉類が採集されている。

採集品の中には、ヒスイや滑石を石材とする未完成品が含まれており、集落内部で玉造りを行っていた可能性が高い。

八幡林官衙遺跡は、奈良時代から平安時代にかけて機能した、古志郡衙関連遺跡である。出土品の中には、「郡」や「大領」にかかわる豊富な文字資料（木簡・墨書き器）があり、地方行政の実態を伝える第一級資料として全国的に注目されている。

長岡市内には、これら以外にも多くの重要遺跡が眠っている可能性が高い。今回のような試掘・確認調査を地道に積み重ね、文化財保護に遺漏がないよう努めることが必要である。



第1図 長岡市の位置

(2) 平成 20 年度調査の概要

平成 20 年度、長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は、総数 17 件である。原因別の内訳は、ほ場整備事業に伴うものが 7 件で最も多い。つづいて河川改修、市道改良、公共施設建設、天然ガス開発がそれぞれ 2 件あり、特別高圧線鉄塔建設、都市再開発事業が各 1 件であった。このほか、諸開発に伴う工事立会いを 10 件実施している。近年調査原因の上位を占めていた、携帯電話通信用鉄塔建設に伴う調査は、工事立会い 2 件のみであった。

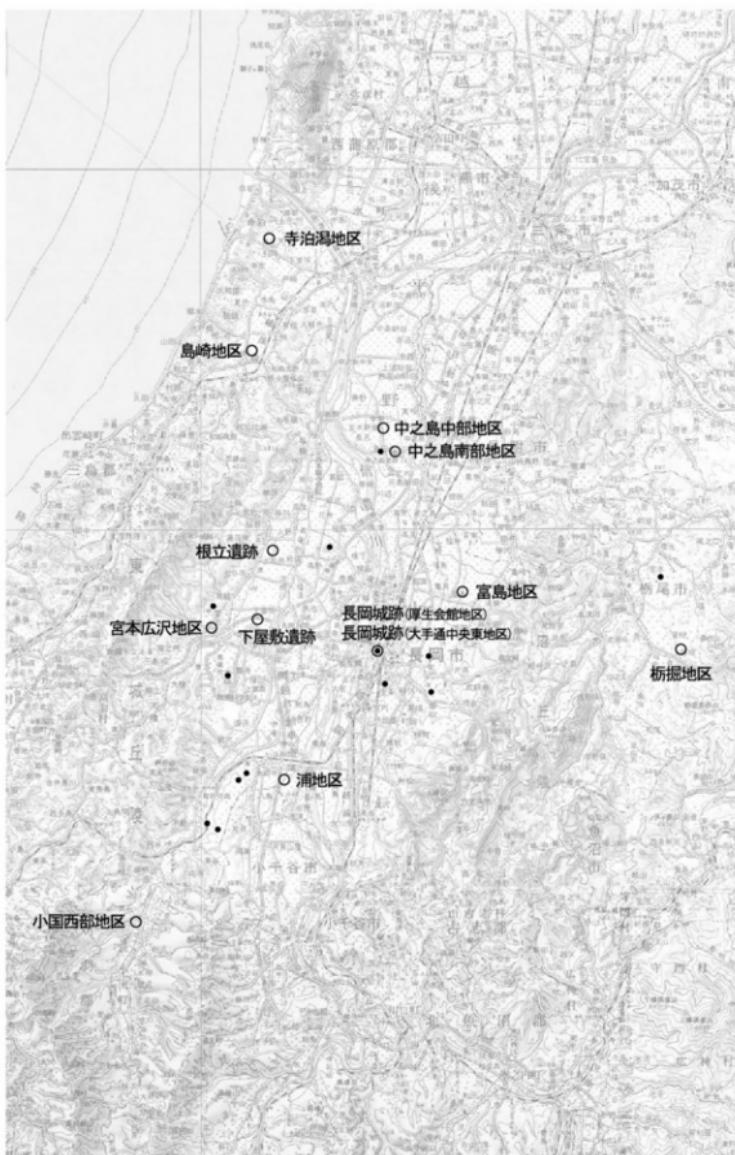
つづいて、本年度の試掘・確認調査の結果について概観する。本年度実施した 17 件のうち、遺構や一定量の遺物が検出され、施工内容によっては本調査となる可能性が高い箇所は、ほ場整備事業に伴う潟地区的吉竹北遺跡と、中之島南部地区的観音寺遺跡、富島地区的五百刈遺跡、郷本川改修に伴う川東遺跡、市道改良に伴う下屋敷遺跡と多賀屋敷遺跡、シティホール建設に伴う長岡城跡の 7 遺跡である。このうち長

岡城跡については、平成 20～21 年度の継続費で実施することが決まり、平成 21 年 1 月、本調査に着手している。

このほか、本調査の対象とはならなかつたものの、黒川広域河川改修事業に伴う根立遺跡の確認調査が注目される。本遺跡は昭和 47 年以来、3 度の中村孝三郎氏による発掘調査が行われた著名な遺跡である。本年度の調査では、既調査区から続く遺物包含層の延長が確認され、縄文時代後期前半の遺物が多量に出土した。幸いにも、今回の工事による掘削深度では、遺物包含層に影響を与えないことが明らかになり、本調査実施の必要はないとの判断された。

第 1 表 平成 20 年度長岡市内確認・試掘・立会調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	潟地区	県営ほ場整備事業	試掘（遺構・遺物なし） 確認 ピット／土師器・須恵器
和島	島崎地区	河川改修事業	試掘 潟／土師器（古墳）など →平成 21 年度本発掘調査予定
中之島	中之島中部地区	県営ほ場整備事業	確認 古式土師器・珠洲焼など少量 →遺跡ではない。
	中之島南部地区	県営ほ場整備事業	確認 土師器・須恵器多数。 →事業者に通知。
	横山・中之島高畑地区	下水道工事	立会（遺構・遺物なし）
三島	根立遺跡	河川改修事業	確認 縄文後期の土器・石器など →遺跡への影響はないため本調査不要。
	上向遺跡	個人住宅建設	立会（遺構・遺物なし）
長岡	富島地区	県営ほ場整備事業	確認
	下屋敷遺跡	市道改良事業	確認 平安の遺構・土器 →平成 21 年度本発掘調査予定
	宮本広沢地区	団体営ほ場整備事業	試掘 古代の土器・窯壁片・鉄滓など少量出土 →遺跡ではない。
	長岡城跡 (厚生会館地区)	公共施設整備事業	確認 墓・柱穴／近世陶磁器など →平成 20・21 年度本発掘調査実施
	長岡城跡 (大手通中央東地区)	市街地再開発事業 (店舗・オフィス・住宅ビル建設)	確認 潟・土坑／近世陶磁器・硯など。 →一部立会（複乱土内から近世陶磁器）
	芦川城跡	石碑（米山塔）建替え	立会（遺構・遺物なし）
	悠久山地区	トキ近似種育苗施設建設工事	試掘（遺構・遺物なし）
	高寺城跡	携帯電話基地局建設	立会（遺構・遺物なし）
	長岡城跡 (大手通中央西地区)	市街地再開発事業（マンション建設）	立会（遺構・遺物なし）
	中沢町	携帯電話鉄塔建設	立会（遺構・遺物なし）
棚尾	加内遺跡	個人住宅建設	立会（遺構・遺物なし）
	橋堤地区	県営ほ場整備事業	確認（遺構・遺物なし）
越路	橋倉遺跡	土砂採取	立会（遺構・遺物なし）
	浦地区	市道改良事業	確認 縄文後期の土坑／土器など →平成 21 年度本発掘調査予定
	上並松遺跡	天然ガス関連事業	確認 縄文土器が少量出土
	越路原地区	天然ガス関連事業	試掘（遺構・遺物なし）
小国	不動沢地区	特別高压線鉄塔建設事業	試掘（遺構・遺物なし）
	小国西部地区	県営ほ場整備事業	試掘（遺構・遺物なし）



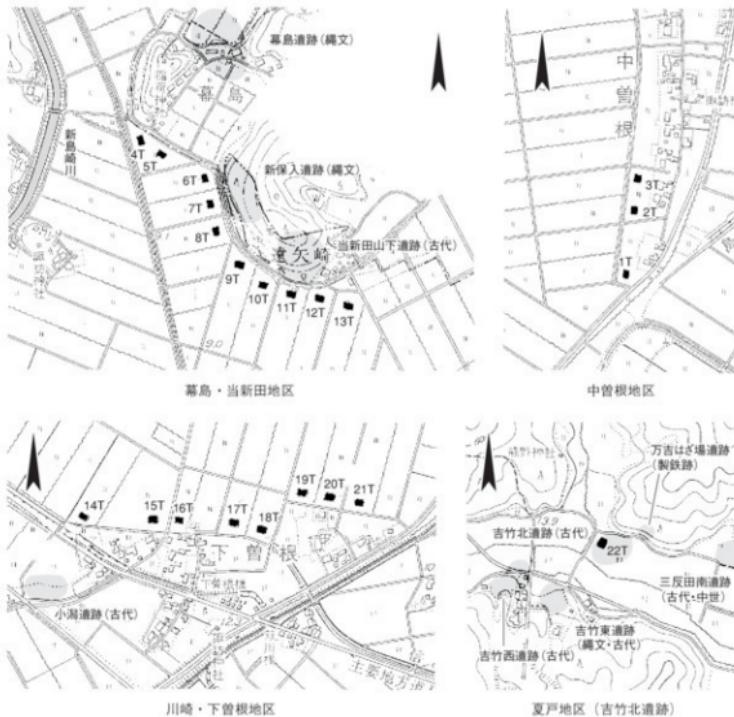
第2図 平成20年度調査位置図 (1/250,000)

2 寺泊潟地区試掘・確認調査

調査地 長岡市寺泊下曾根・当新田ほか 調査面積 129.0 m²(対象面積2,227,000 m²)
調査期間 平成20年10月6日～7日、平成21年2月5日 調査担当 加藤由美子

調査に至る経緯 長岡市教育委員会では県営経営体育施設基盤整備事業「潟地区」の工事着手に先立ち、平成 16 年度から試掘確認調査を実施しており、5 年目となる今年で調査は終了する。総事業面積 505ha のうち、今年度は潟 5 期地区（寺泊川崎・下曾根・当新田・中曾根・幕島）を対象に稲刈り後の平成 20 年 10 月に試掘調査を実施した。また、平成 18 年度の潟 3 期地区（夏戸・大和田・志戸橋）の試掘調査で新たに見つかった吉竹北遺跡の確認調査を平成 21 年 2 月に実施した。

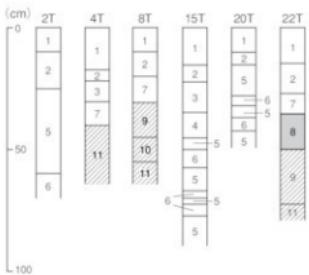
調査地・遺跡の概要 潟5期地区一帯には近世末まで円上寺潟という潟が存在したが、大河津分水路工事の掘削廃土により埋め立てられた。調査区の設定にあたっては当時の埋め立て深度と工事掘削深度を照らし合わせ、工事掘削深度が旧地表面に及ばない箇所については、工事による埋蔵文化財への影響はない」と判断し調査区を設定していない。潟3期地区で発見された吉竹北遺跡は丘陵の南側の緩斜面に立地し、試掘調査で土師器と須恵器が出土した。また、方形のピットが1基確認されている。



第3図 トレンチ配置図 (1/10,000)

調査の結果 潟5期地区に 2×3 mの調査トレンチを21箇所設定したが、遺物・遺構は確認できなかつた。潟3期地区の吉竹北遺跡の確認調査では、 1×3 mの調査区を1箇所設定した。現地表面下35cmで古代の遺物包含層を確認し、土師器の甕、須恵器の壺が出土した。その下の遺構確認面で直径25cm、深さ20cmのピットを1基検出した。覆土は炭混じりで土師器の破片が含まれる。この土師器片と包含層出土遺物とは同時期のものと考えられる。遺物包含層には被熱したような粘土塊が多く含まれおり目を引く。南側の丘陵部からの流れ込みによるものか、その由来については不明である。

まとめ 潟5期地区では遺跡が見つかなかつたことから、工事の着手に関して特に問題ないと判断した。潟3期地区の吉竹北遺跡は、わずかな調査面積ながら一定量の遺物が出土し遺構も検出されており、工事に際して慎重な取扱いが求められる。事業者である長岡地域振興局との協議の結果、工事の掘削深度が遺構面にまで及ぶ用排水路工事部分に限り、本発掘調査を実施することとなつた。



第5図 22T 遺構平面図 (1/50)

- 1:水田耕作土
- 2:暗灰色粘質土(水田の基盤層)
- 3:灰黄色粘質土(しまり強・粘性中)
- 4:灰褐色細砂(しまり弱・粘性弱)
- 5:灰色~灰黄色微砂(しまり弱・粘性弱)
- 6:明茶褐色~茶褐色腐植土
(植物遺体含む、しまり弱・粘性弱)
- 7:灰白色砂質土(しまり中・粘性弱)
- 8:灰褐色粘質土
(遺物包含土、炭含む、しまり中・粘性中)
- 9:黄褐色粘質土(地山層、しまり強・粘性中)
- 10:黃白色粘質土(地山層、しまり強・粘性中)
- 11:青灰色~灰黄色粘土(地山層、しまり強・粘性強)

第4図 土層柱状図 (1/20)



写真1 調査風景

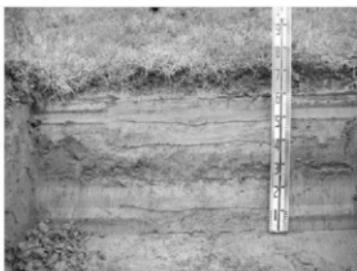


写真2 8T土層断面



写真3 22T土層断面

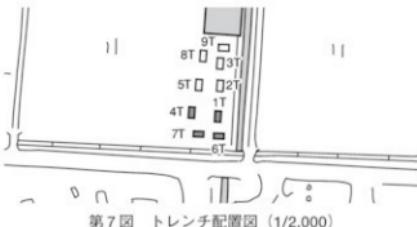
3 島崎地区試掘調査

調査地 長岡市島崎字川東 調査面積 72.0 m²(対象面積 920 m²)
 調査期間 平成20年12月18日～19日 調査担当 丸山一昭

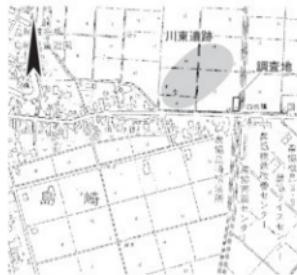
調査に至る経緯 島崎地区の中心部を蛇行する郷本川は、河川改修事業により川幅の拡幅・築堤を行うほか、島崎集落南側を迂回する新たな河道を開削する計画となっている。平成20年12月、河川改修用地に近接して川東遺跡が表面採集により発見されたため、事業者である新潟県長岡地域振興局地域整備部と板維持管理事務所と協議を行い、遺跡の有無を確認するための試掘調査を実施することとした。

調査の結果 試掘トレンチの内、1T・4T・6T・7Tにおいて古墳時代を中心とする遺構・遺物が検出された。遺物包含層(4層)は1Tの北側で徐々に薄くなる傾向にあり、2T以北では確認されなかった。

北側のトレントでは旧河川の堆積土と思われる暗灰色砂質土層が卓越しており出土遺物はなかった。6Tでは溝状遺構を検出し、幅62cm、深さ23cmで断面は逆台形を呈する。溝上面で古墳時代の土師器小片(4)が1点出土しているが、遺構内からの出土は見られなかったため詳細な時期は不明である。包含層出土遺物は平安時代の須恵器横瓶(6)のはか、古墳時代の高杯脚部(1・5)、甕・壺の底部(2・3)が出土している。地点別の出土量では1Tが最も多いが、全体的に遺存状態は不良なものが多い。以上の結果から、当該地区は川東遺跡の縁辺部に位置するが遺跡の範囲内にあると考えられ、遺構・遺物を検出したトレントを含む約220 m²について本調査が必要であることを事業者に伝えた。



第7図 トレント配置図 (1/2,000)



第6図 調査位置図 (1/1,000)



写真4 6T溝状遺構



第8図 土層柱状図 (1/40)

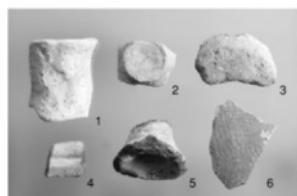


写真5 出土土器

4 中之島南部地区確認調査

調査地 長岡市杉之森 調査面積 114.0 m²(対象面積 600,000 m²)
 調査期間 平成 20 年 10 月 22 日～23 日 調査担当 小林 徳

調査に至る経緯 長岡市教育委員会は県営は場整備事業中之島南部地区内の遺跡の取扱いについて新潟県三条地域振興局農地振興部と話し合いを重ねていった。杉之森遺跡周辺地の整備に関して平成 20 年 4 月 10 日に協議をし、結果工事中の不時発見を避けるため稲刈り後の秋に調査を行うこととし、地元説明などで協力を仰ぐことで合意した。

調査地の概要 杉之森集落は沖積低地内に存在する微高地に営まれている。杉之森遺跡は昭和 30 年前後の耕地整理において弥生時代終末から古墳時代前期のいわゆる古式土師器が出土し、長岡市立科学博物館などにより採集された。のち昭和 50 年に北陸高速自動車道建設工事に伴い発掘調査が行われ、室町時代の遺物が出土した(新潟県教育委員会 1976)。また、調査中に近くの水田などから古式土師器も多く表採され、広い範囲でいくつかの時代の遺跡が重複していると考えられている。

また、遺跡の西には杉之森遺跡と同時代の土器が出土した高畠遺跡や、中世の遺物が採取された横山桜現堂遺跡もあり、原始以降この一帯に人々が断続的に集落を形成していったと考えられている。

調査の結果 調査は深く掘削の必要がある水路予定地に対して行った。19箇所のトレンチを重機により慎重に掘削していくが、土器片が数点出土しただけであった。以上の結果により事業者には工事に影響がないことを伝えた。土層状況からも低地であったことがうかがわれ、現在の集落部分のみが帶状に微高地となっており、中之島地域は周囲を信濃川や刈谷田川に囲まれていることから、洪水の被害などから遙れるため周囲より少しでも高いところに集落を営んだと考えられる。



第9図 トレンチ配置図 (1/10,000)



第10図 土層柱状図 (1/30)



写真6 調査地遠景

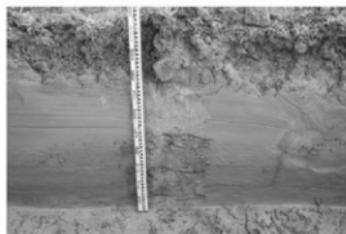


写真7 10T土層断面

5 中之島中部地区確認調査

調査地 長岡市上沼新田・横野 調査面積 144.0 m²(対象面積 150,000 m²)
調査期間 平成 20 年 11 月 4 日～5 日 調査担当 小林 徳

調査に至る経緯 新潟県地域振興局農業振興部と長岡市教育委員会は県営は場整備事業中之島中部地区内の埋蔵文化財の取扱いについて協議し、観音寺遺跡及びカジヤシキ遺跡周辺地の確認調査を早期に実施し、調査結果を今後の工事計画に生かすことで合意した。

調査地の概要 観音寺遺跡は沖積低地に位置し、現在は中之島川左岸に立地する。農道整備により発掘調査がなされ、平安時代を中心とした遺物が出土した。なかでも帶金具の銅製丸瓶や环軸用硯、木製櫛などの出土により識字層の支配者クラスに関連する遺跡と考えられている。カジヤシキ遺跡は鉄滓が見つかつたといわれ、中世に存在したといわれる天所城に関係する鍛治関連の遺跡といわれている。

調査の結果 カジヤシキ遺跡周辺地では近世陶磁器が 1 点出土したのみであった。観音寺遺跡周辺地では遺物の出土が見られた。

図 13 に図示した遺物は全て 14T にて出土したものである。1～3 は土師器の壺で、2 の底部には回転系切り痕が見られる。いずれも横ナデにより調整されていた。4 は高台を持つ須恵器の壺で、底部には明瞭なヘラ切り痕が付いている。5 は土師器甕で、6 は土師器の鍋である。両遺物とも口縁部のみの出土で、底部を検出することはできなかった。ほかにも須恵器甕の破片などが出土しており、14T から出土した遺物はいずれも 9 世紀ごろの所産と見られる。

まとめ これらの結果から、観音寺遺跡はそれまで考えられていたよりも遺跡の範囲が広がっていると見られ、特に多くの遺物が出土した 14T 周辺では掘削を行う場合は本発掘調査が必要となる可能性があることを事業者に通知した。



第 11 図 トレンチ配置図 (1/10,000)

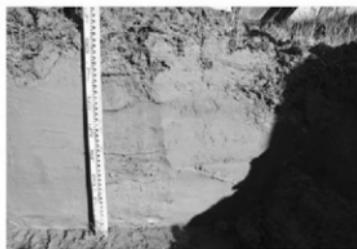
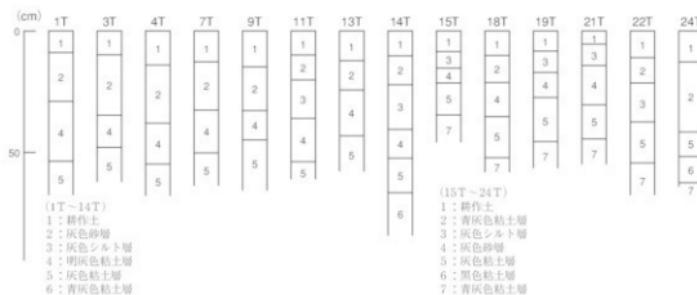


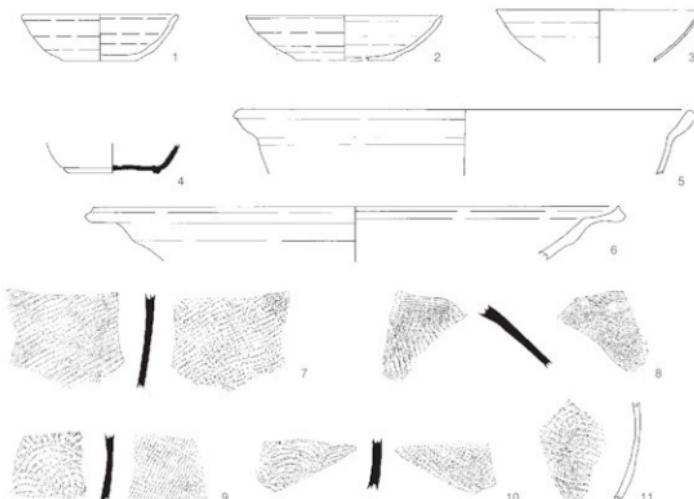
写真8 14T土層断面



写真9 出土遺物



第12図 土層柱状図 (1/20)



第13図 出土遺物 (1/4)

6 根立遺跡確認調査

調査地 長岡市上岩井字根立

調査面積 54.0 m²(対象面積 1,120 m²)

調査期間 平成 20 年 9 月 17 日～19 日

調査担当 丸山一昭

調査に至る経緯 黒川広域河川改修事業に伴う河川拡幅工事は下流側から順次行われており、平成 21 年度以降は周知の遺跡である根立遺跡周辺でも実施の予定となった。根立遺跡は 1972 年(昭和 47)以来、長岡市立科学博物館の中村孝三郎により 3 度の発掘調査が実施され、縄文時代後期前葉の土器・石器とともに木製品や漆器・獸骨・植物遺存体など多様な遺物が出土したことで著名な遺跡である。このことから、遺跡の取扱いについて事業者の新潟県長岡地域振興局地域整備部と板維持管理事務所と協議を行った。今回工事を行う高水敷拡幅部分については遺物包含層の深度や堆積状況が未確認であったため、確認調査の後に本発掘調査実施の要否を判断することとした。

遺跡周辺の環境 根立遺跡は信濃川左岸に連なる西山丘陵裾部に立地する低湿地遺跡で、現況は河川敷・水田である。周辺には標高 80 m 前後の河岸段丘が形成され、千石原遺跡など縄文時代中・後期の遺跡は、この中位段丘上に立地している。

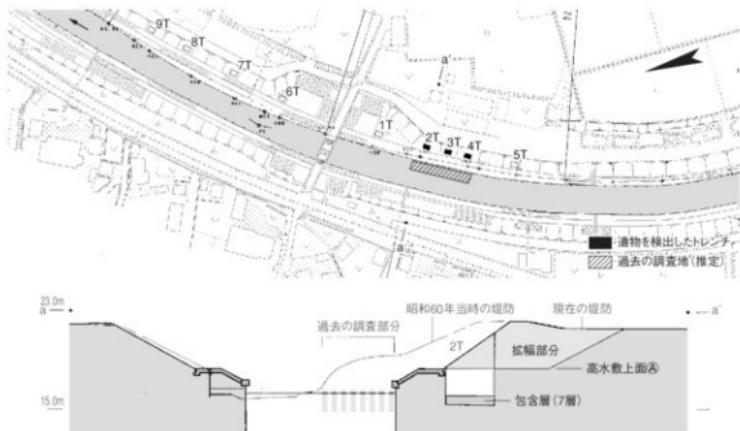
調査の結果 黒川右岸の高水敷に 2 × 3 m のト

レンチを 9 箇所設置し、バックホウによる掘削を上流側の 5 T から下流側の 9 T に向かって順次行った。その結果、粘土やシルト、砂などで形成される水成堆積層(3 層・5 ~ 6 層)や未分解植物が主体の泥炭層(4 層)が厚く堆積し、その下層に遺物を多量に包含する黒色粘土層(7 層)が存在することが確認された。7 層は 2 T ・ 3 T で確認され、高水敷のコンクリート護岸上面から約 2 m 下層の標高 16.3 m 付近に堆積している。5 ~ 6 層出土の遺物は、ごく少量であることから二次堆積と考えられる。4 T ・ 5 T では青灰色シルト層(6 層)で掘削を止めたため包含層を確認できなかったが、2 T ・ 3 T と同様の堆積状況であることや過去の調査範囲から推定すると、5 T 付近までは包含層が存在している可能性が高い。

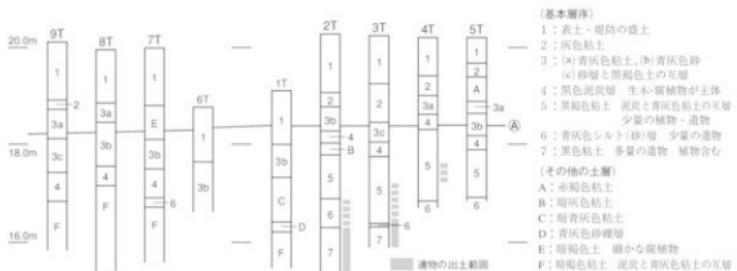
遺物は土器・石器・漆器・獸骨・植物遺存体等が出土し、遺物総量はコンテナで約 20 箱あった。主要遺物の実測図及び写真、観察表を以下に示した(第 17~20 図、写真 17~18、表 2)。2 T では後期前葉の三十稻場式土器、3 T では後続の南三十稻場式土器が主に出土している。調査範囲が限定されているため断定できないが、地点によって分布が異なる可能性も考えられる。出土土器全体の特徴として器面の風化は見られず、煮沸等による煤・炭化物の付着したものが多い。後期初頭に通る可能性がある土器は 1・21・22 である。1 口縁部が内傾し縁取りされ頸部の区画に隆蒂文が施されるもの、21・22 は波状口縁部側面に突起を設けるものである。後期前葉の三十稻場式土器を中心とするものは、2~12・35~44・50~53・63・



第 14 図 遺跡分布図 (1/20,000)



第15図 トレンチ配置図(1/2,000) 及び計画断面図(1/400)



第16図 土層柱状図(1/100)

64である。甕形土器では、くの字に屈曲する口縁部に橋状把手が付く古い様相をもつもの(2・3)や橋状把手の退化した新しい様相のもの(10・50)がある。文様には爪形・花弁状の刺突文(4・7・8・36~38)、粘土粒を貼り付けた突瘤文(6・9)、竹管による円形刺突文(41~43)、縄文(5・12)などがある。南三十九稲場式土器では27~33・54・55があり、これ以後の新しい様相をもつ土器として56・57があげられる。粗製の深鉢(19~26)や隆背文土器(13~18・59・60)は後期前葉を通じ見られるものである。在地系以外では網取式に類似する土器(65)、称名寺式に類似する土器(34・61)が見られる。石器は全体で剥片5点・磨製石斧1点・石錐9点・磨石類23点・石皿2点が確認され、この内13点を図示した。このほか、熱を受け破碎した礫が30点程見られる。前回調査ではイノシシ・ニホンジカなどの歯齒が出土しているが、今回も同様の歯齒片が出土した。このほか朱漆の漆器片、トチやオニグルミなどの堅果類が採集された。

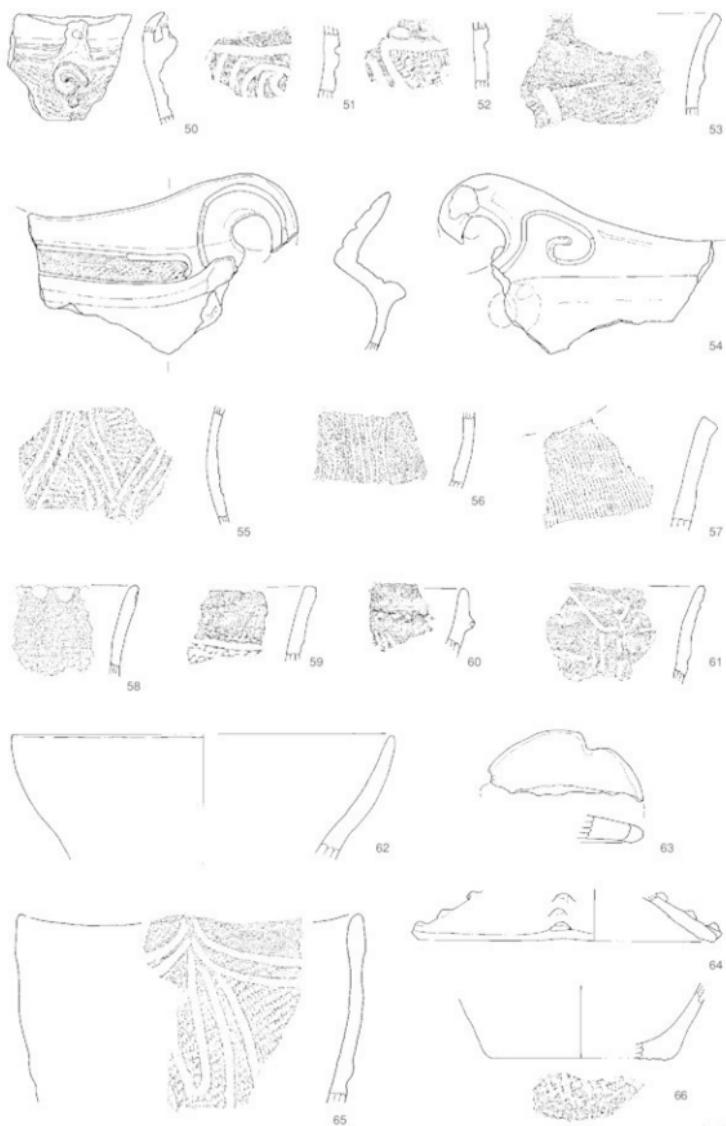
まとめ 今回の調査では現地形に合わせた遺跡の標高値が得られ、遺跡の基本情報を把握することができた。包含層の厚さや分布範囲など未だ不明な点も多いが、今後の課題としたい。以上の結果から、今回の拡幅工事による遺跡への影響は無いと考えられ、本調査実施は必要ないことを事業者に伝えた。



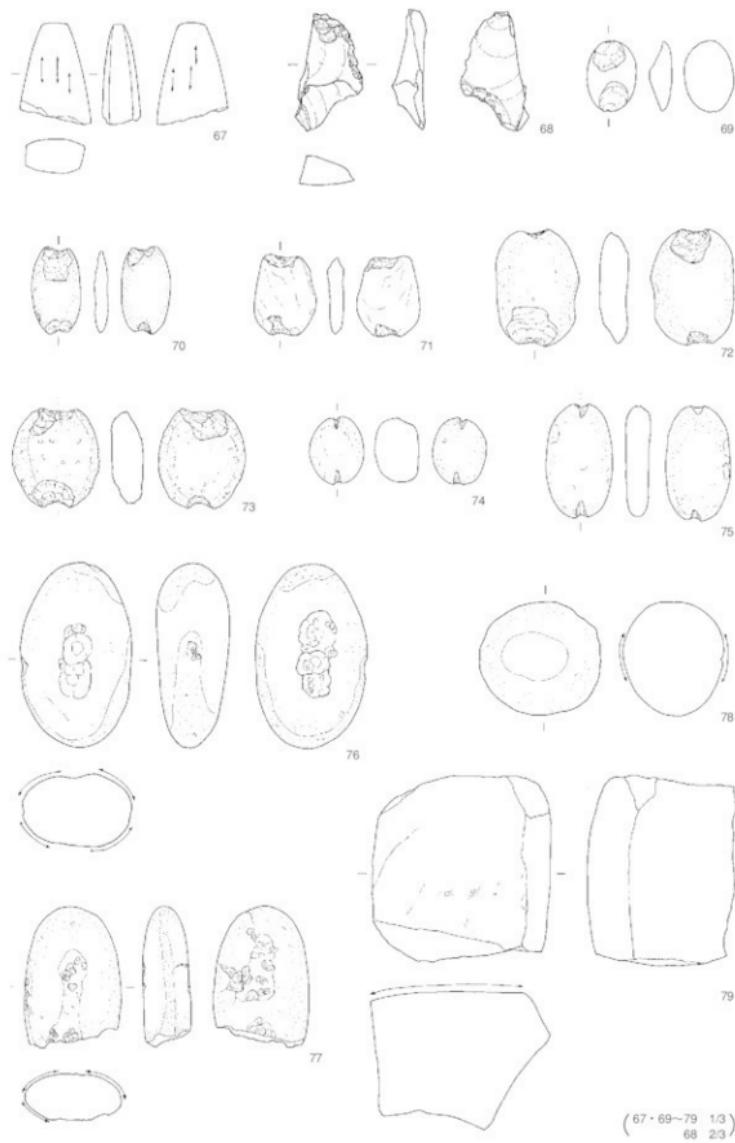
第17図 2T出土土器 (1)



第18図 2T出土土器 (2)



第19図 3T出土土器



第20図 2T・3T出土石器



写真10 遺跡近景（根立橋から上流側）



写真11 遺跡近景（根立橋から下流側）



写真12 2T土層断面



写真13 3T土層断面

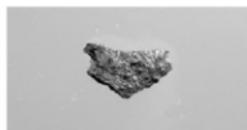


写真14 3T出土漆器（1/1）



写真15 3T出土獸齒（1/2）

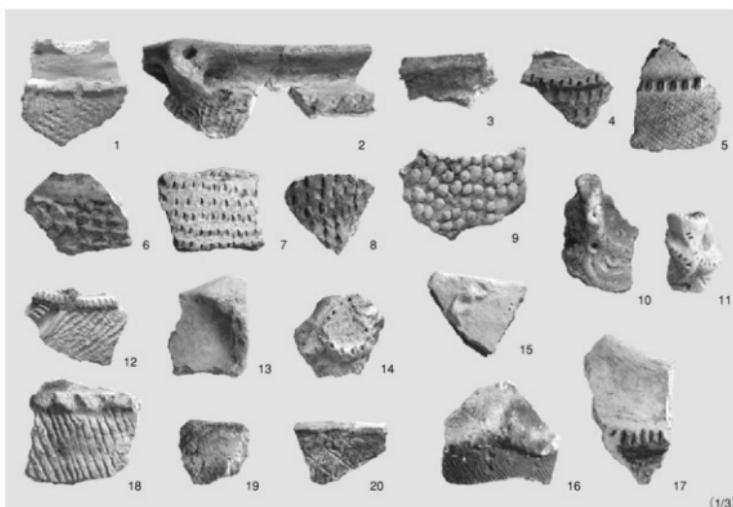


写真16 出土遺物（1）

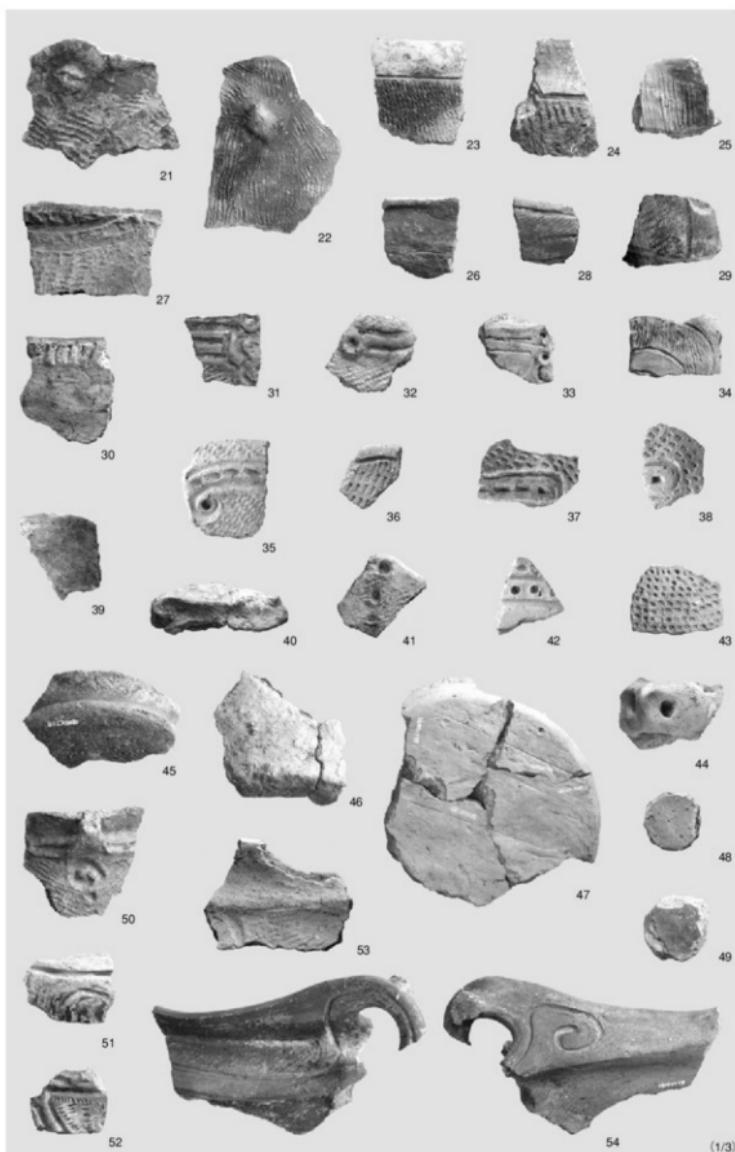


写真17 出土遺物 (2)

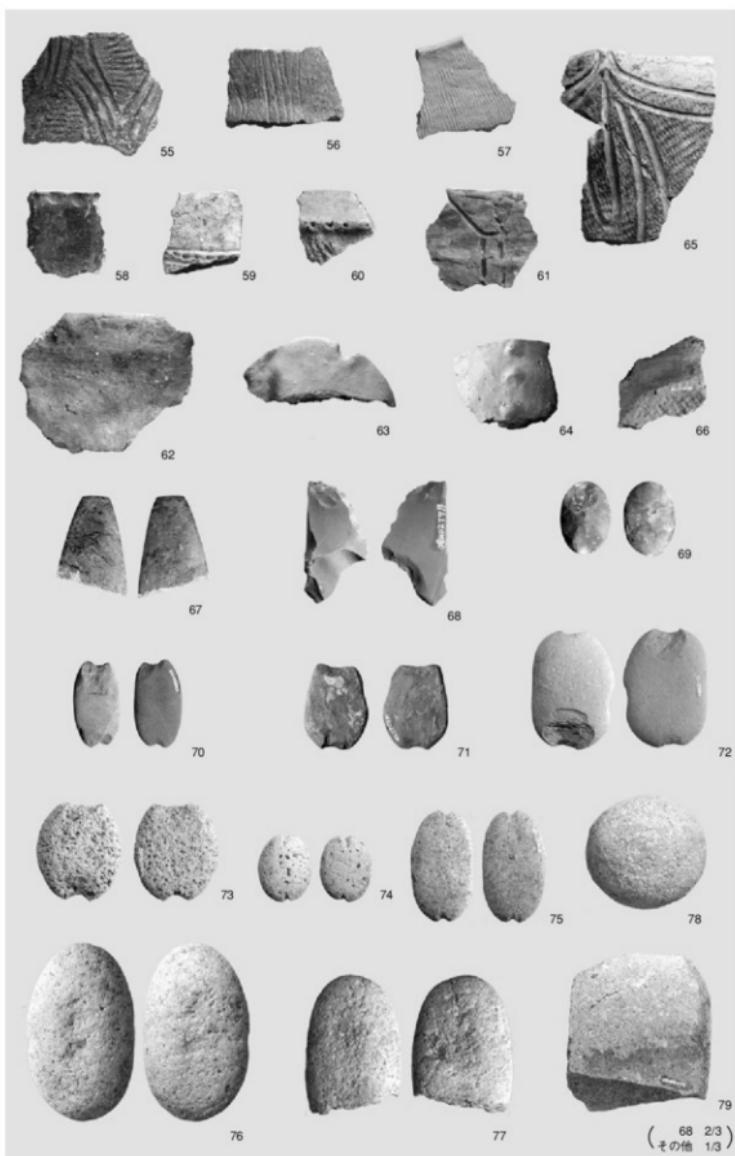


写真18 出土遺物 (3)

土器観察表

No.	出土場所	器種	部位	法寸 (cm)	文様等	負担 (内面)	色調 (外面)	胎土	土器形式	備考
1	2 丁 7 丁層	縦形	口縁部		唐津文・網文 (R)	灰白	灰白			
2	2 丁 7 丁層	縦形	口縁部	口径 : 26.0	楕状把手・萬字 (L)	にがい・黒	黒		三十幅式 (方)	外面：汎化物
3	2 丁 7 丁層	縦形	口縁部			萬字	白		三十幅式 (方)	
4	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		唐津文・網文			粘土質	三十幅式 (中)	
5	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		押江文・網文 (BL)	浅黄褐色	にがい・黄褐色	石英・長石多い	三十幅式 (中)	
6	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		網文	白	白	黑色鉱物多い	三十幅式 (中)	
7	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		網文	灰黄	灰白	石英・長石多い	三十幅式 (中)	
8	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		網文	灰黄	灰白	粘土質	三十幅式 (中)	
9	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		網文	灰黄	灰白	粘土質多い	三十幅式 (中)	
10	2 丁 7 丁層	縦形	腹部			灰褐色	黑褐色		三十幅式 (新)	外面：汎化物
11	2 丁 7 丁層	縦形	口縫部			灰黄	灰黄		三十幅式 (新)	
12	2 丁 7 丁層	縦形	腹部		網文 (R)	にがい・黄褐色	にがい・黄褐色	粘土質	三十幅式 (新)	
13	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	にがい・黄褐色	黄褐色	長石・粘土質		外面：ヌス
14	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	黒褐色	黒褐色			
15	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	灰白	灰白			外面：ヌス
16	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	灰白	灰白			外面：ヌス
17	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	にがい・黄褐色	にがい・黄褐色			
18	2 丁 7 丁層	脚部			網文・撚糸文	褐灰	にがい・黄褐色	粘土質多い		
19	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文 (R)	灰黄	褐			外面：ヌス
20	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文 (R)・唐津文	黄褐色	にがい・黄褐色			外面：汎化物
21	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文・安配	灰褐色	褐	粘土質多い		外面：汎化物
22	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部	口径 : 20.4	網文 (R)・網文	黄褐色	褐灰		三十幅式	
23	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	灰白	白		三十幅式	
24	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	灰	灰		三十幅式	
25	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		条文	にがい・黄	灰黄	粘土質多い		
26	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	灰褐色	褐			外面：ヌス
27	2 丁 7 丁層	脚部			沈綻文・網文	浅黄	にがい・黄		南二十幅式	
28	2 丁 7 丁層	口縫部			沈綻文・網文	黑	黑		南二十幅式	外面：汎化物
29	2 丁 7 丁層	脚部			網文 (R)・網文	黑	黑		南二十幅式	外面：ヌス
30	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	にがい・黄褐色	石英多い	網文・撚糸文		
31	2 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文 (R)・撚糸文	黑	黑		南二十幅式	外面：汎化物
32	2 丁 7 丁層	脚部			網文 (R)・撚糸文	明灰灰	明灰灰	粘土質多い	南二十幅式	
33	2 丁 7 丁層	脚部			網文	浅黄	浅黄		南二十幅式	
34	2 丁 7 丁層	脚部			沈綻文・網文	黑	黑		名古屋式系	
35	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部		網文 (R)・撚糸文	灰白	白	石英多い	三十幅式	外面：汎化物
36	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部		沈綻文・網文	黄褐色	にがい・黄	粘土質多い	三十幅式	
37	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部		沈綻文・網文	黑褐色	黑褐色		三十幅式	外面：ヌス
38	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部		沈綻文・網文	黑	にがい・赤褐色		三十幅式	
39	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部		網文 (R)	灰褐色	灰褐色	長石	三十幅式	外面：ヌス
40	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部	口径 : 9.8	帶地文	にがい・黄褐色	にがい・黄褐色		三十幅式	
41	2 丁 7 丁層	蓋	口縫部		網文 (R)・網文	浅黄	浅黄		三十幅式	
42	2 丁 7 丁層	蓋			沈綻文・網文	黑	にがい・黄褐色		三十幅式	
43	2 丁 7 丁層	蓋			円形刻文	暗灰褐色	灰褐色	粘土質多い	三十幅式	
44	2 丁 7 丁層	蓋				灰	灰		三十幅式	
45	2 丁 7 丁層	底			底	にがい・黄褐色	砂粒多い			
46	2 丁 7 丁層	底			底	13.2	底			
47	2 丁 7 丁層	底			底	26.9	底			
48	2 丁 7 丁層	円形土管		4.0×4.2		暗灰	暗灰			
49	2 丁 7 丁層	円形土管		3.8×3.7		暗灰	暗灰	底リープ		
50	3 丁 7 丁層	甌	口縫部		楕状把手・網文 (BL)	黒	オーバー黒		三十幅式 (新)	外面：ヌス
51	3 丁 7 丁層	脚部			沈綻文	浅黄	浅黄		三十幅式 (新)	外面：ヌス
52	3 丁 7 丁層	脚部			沈綻文・網文	褐灰	灰褐色		三十幅式 (新)	
53	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		沈綻文・網文 (LR)	浅黄	浅黄	砂粒多い	三十幅式 (新)	
54	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		沈綻文・網文 (LR)	灰褐色	褐		三十幅式	外面：汎化物
55	3 丁 7 丁層	深鉢	脚部		沈綻文・網文	黒	黒		三十幅式	外面：汎化物
56	3 丁 7 丁層	深鉢	脚部		沈綻文	暗灰褐色	暗灰褐色			外面：汎化物
57	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	黄褐色	にがい・黄褐色	粘土質多い		
58	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		帶地紋	浅黄	黒			
59	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		沈綻文・網文	灰褐色	灰褐色			
60	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		帶地紋・網文	にがい・黄褐色	にがい・黄褐色			
61	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部		網文	無地	無地			物名式系
62	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部	口径 : 23.6		灰褐色	灰褐色	砂粒多い	南三十幅式?	外面：汎化物
63	3 丁 7 丁層	蓋			にがい・黄	にがい・黄				
64	3 丁 7 丁層	蓋	口縫部	口径 : 19.0	巻状の安配	黒	底白		三十幅式	
65	3 丁 7 丁層	深鉢	口縫部	口径 : 21.2	沈綻文・網文 (L,R)	底白	灰白		網収式系	外面：ヌス
66	3 丁 7 丁層	底		底径	底	底白	底白	長石・石英	底形：網底版	

石器観察表

No.	出土場所	器種	石種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
67	3 丁 7 丁層	磨紋石斧	軟紋岩	6.0	4.5	2.4	99.5	
68	2 丁 7 丁層	2 次加工のある剥片	頁岩	3.7	1.9	1.1	5.5	
69	2 丁 7 丁層	石核削作未完成	玉髓	4.5	3.0	1.3	23.2	
70	2 丁 7 丁層	石斧	燧石	5.4	3.0	0.4	21.2	
71	2 丁 7 丁層	石斧	燧石片岩	6.9	3.8	0.9	26.0	
72	2 丁 7 丁層	石斧	燧石	7.1	5.2	1.8	98.5	
73	3 丁 7 丁層	石斧	安山岩	6.1	5.2	1.8	81.0	
74	2 丁 7 丁層	石斧	安山岩	4.1	3.3	2.7	34.2	
75	3 丁 7 丁層	石斧	安山岩	6.9	4.0	1.5	60.0	
76	3 丁 7 丁層	磨石類	安山岩	11.3	6.8	4.3	665.0	
77	3 丁 7 丁層	磨石類	安山岩	9.8	5.8	2.8	209.0	
78	2 丁 7 丁層	磨石類	安山岩	7.5	7.0	6.2	424.5	
79	2 丁 7 丁層	石皿	ハシレイ岩	11.2	10.8	9.1	1020.0	

第2表 根立遺跡出土遺物観察表

7 富島地区確認調査

調査地 長岡市富島町字五百刈

調査面積 140.0 m²(対象面積 46,456 m²)

調査期間 平成 20 年 10 月 6 日～10 日

調査担当 丸山一昭

調査に至る経緯 長岡市教育委員会では富島地区県営ほ場整備事業に伴う遺跡確認調査を平成 17 年・18 年度に実施し、遺跡の分布範囲や遺存状態について概要を把握することができた。遺構・遺物は表土直下の非常に浅い深度から検出されるため、その取扱いについて事業者である新潟県長岡地域振興局農林振興部と協議を重ねてきた。平成 20 年 4 月に本整備事業が正式採択されたことにより、事業者との具体的なスケジュールや本調査費用についての調整を行うこととなった。今回の確認調査は、広範囲で遺構・遺物が検出された五百刈遺跡の内容を補足するために実施したものである。

遺跡の概要 遺跡は富島町の北東部、猿橋川左岸に広がる沖積平野の微高地に立地する。過去に 2 度の確認調査が実施された結果、主に弥生時代から平安時代の遺物が検出された。遺跡の広がりは東西約 250m、南北約 430m、面積約 85,000 m²を測り、富島地区的遺跡群でも中心的な遺跡である。

調査の結果 28 箇所の調査トレンチを設定し、バックホウによる掘削を行った。トレンチ番号は前回調査に引き続き通し番号とした。このうち 5 箇所で遺構を確認し、7 箇所で遺物が出土した。

(1) 遺構 90T の 3 層上面では構 1 条・ピット 2 基が検出された。構は南北方向に延び、幅約 90cm、深さ約 20cm で断面は浅い椀形状である。遺構は木堀のため出土遺物は得られていないが、遺構確認面上層の暗灰色粘土層からは、1 cm ほどの炭化物とともに平安時代の遺物が定量出土した。また、構の規模を把握するために設定したサブトレンチからは弥生土器が出土した。出土層位は 3 層の下層である。

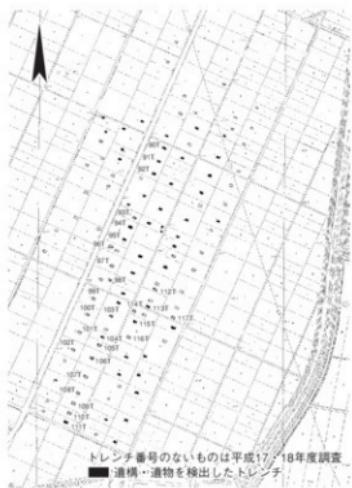
91T では西側壁面の 3 層上層で土坑状の落込み穴が検出された。全体を窓うことはできないが全長 1.5 m 以上の不整形で浅いものである。土坑上面及び内部から平安時代の須恵器・土師器が出土した。

(2) 遺物 主な遺物は 90T (1～7)・91T (8～12) からの出土で、弥生土器・須恵器・土師器が確認された。所属時期は概ね弥生時代後期後半(法仏式)と平安時代(9世紀後半)を中心とするもので、平成 17 年度調査成果と一致する。

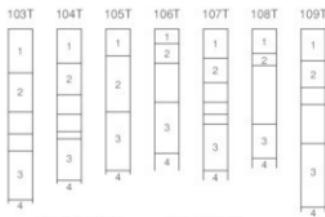
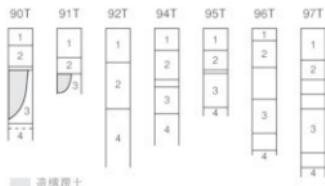
弥生土器は器台(1・2)、赤彩の施された高环(3)のほか、甕の胴部片等が出土した。須恵器は長頸瓶(5)、环蓋(6・9)、無台环(8・11)、有台环(10・12)が出土し、小泊須恵器が主体のようである。土師器は無台椀(4)、有台椀(7)のほか、煮炊具の胴部片等が出土した。なお 12 は漆書土器で内面に記号「+」が記されている。平成 17 年度調査でも同様に漆書土器が出土しており、本遺跡の性格を特徴付ける興味深い資料と言える。今後は、今回の調査成果を基に改めて開発事業者と協議を行い、本調査に向けた調整を行っていく予定である。



第 21 図 富島地区遺跡分布図 (1/20,000)



第22図 トレンチ配置図 (1/10,000)



1 : 水田耕作土
2 : 暗青灰色粘土
3 : 灰褐色土
4 : 青灰色粘土 (地山)

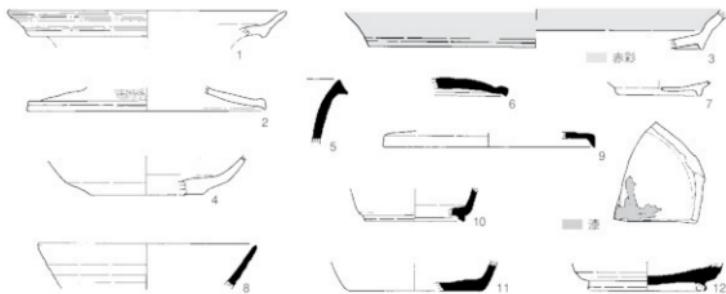
第23図 土層柱状図 (1/20)



写真19 90T遺構検出状況



写真20 91T土坑完掘状況



第24図 出土遺物 (1/3)

8 下屋敷遺跡確認調査

調査地	長岡市関原町1丁目字下屋敷	調査面積	75.0 m ² (対象面積 8,500 m ²)
調査期間	平成20年11月25日～27日	調査担当	山賀和也

調査に至る経緯 平成19年度に周知の遺跡である下屋敷遺跡の範囲内において市道改良工事が計画され、その取扱いについて長岡市土木部道路建設課と協議を重ねた。その結果、県文化行政課の指導も仰ぎ、既存の道路部分と新設される歩道部分は除いた新たに拡幅される車道部分について調査対象とすることとし、その部分について確認調査を行った。

遺跡の概要 遺跡は、信濃川左岸の関原段丘面から続く段丘北端の裾部に位置し、現況は標高約24mの水田である。昭和27年の耕地整理の際、まとまって遺物が発見され、翌28年に工事と並行して長岡市立科学博物館が緊急調査を行った。その結果、墨書き土器と内面黒色土師器をはじめとする、9世紀末から10世紀初頭を主体とした土器が大量に出土した。墨書き土器は「田」と書かれたものがほとんどで、ほかに「上」とと思われるものなどが出土している。須恵器は、佐渡小泊産が大半である。遺構は、規模3.0×4.7mで平面隅丸長方形の堅穴状遺構1基が検出されている。また、この他に中世の遺物も出土している。

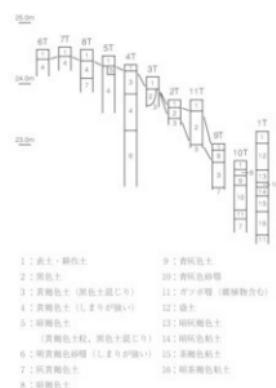
調査の結果 道路拡幅予定地に2×4mのトレーナーを水田1枚につき1～2箇所、合計11箇所設定し、調査を行った。掘削はバックホウで行い、遺構・遺物検出時には人力で精査した。調査地点の詳細は不明であるが、過去の調査では当時の地表面より120cmの深さに遺物包含層があり、地山は青灰色粘土層であることが確認されている。また、耕作地整理の際に旧地表面が大きく削平されているとの地元住民の話しがあったので、その点も考慮に入れて調査を開始した。その結果、青灰色粘土層が確認されたのは10Tのみであり、2T～9T・11Tでは黄褐色土層が堆積していた。したがって、2T～9T・11Tの範囲は関原段丘面から続く段丘の縁辺部に当たるものと考えられ、下屋敷遺跡が沖積地だけでなく段丘上にも広がっていることが明らかとなった。調査地は、地元住民の話のとおり大きく削平を受けており、3T～5Tでは耕作土直下で遺構面を検出し包含層は確認されず、遺構が検出されなかつた6T～8Tに関しては遺構部分も削平されているものと考えられる。2T・11Tで黒色土層を確認した。過去の調査では遺物包含層は黒色土層であることが確認されており、遺物包含層とも考えられるが、遺物が出土しないため明確ではない。遺構は、2T～5T・11Tにおいて土坑・溝を検出した。しかし、遺構から遺物が出土せず、帰属時期は判然としない。

遺物は1T・2T・4T・8T～11Tから出土した。標高の高い場所ではほとんど出土せず、標高の低い1T・9T～11Tで多く出土している。出土遺物の一部を第27図に示した。いずれも須恵器である。1は有台楕で、高台は貼り付けである。破片が小さいため、口径は出せなかった。2～4は無台杯で底部はヘラ切りである。2・3は焼成が軟質で若干古い様相を示す。5は甕の口縁部で、口縁端部で外反している。6～10は甕の胴部である。タキ目は、外面が平行で内面が同心円のもの(6～9)と外面が格子目で内面が平行のもの(10)がある。8は外面にカキ目を施す。6は焼成が不良である。4が8T、6が11T、9が2Tから、残りは9T・10Tからの出土である。この他、内面黒色土師器を含む土師器、鉄滓、砾石が出土している。出土遺物の年代は9世紀後半から10世紀初頭である。過去の調査で羽口が出土していることから、鉄滓は中・近世に属する可能性があるが、明確な中・近世の遺物は出土していない。

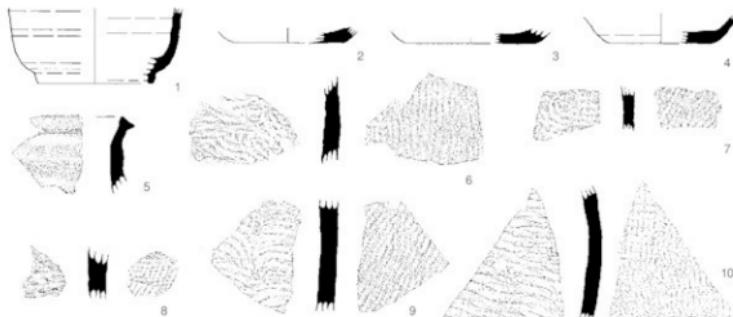
以上を踏まえ、遺跡の取扱いについて協議した結果、遺構を検出した2T～5T・11Tの範囲について平成21年10月頃から本発掘調査を行うこととなった。



第25図 トレンチ配置図 (1/5,000)



第26図 土層柱状図(1/80)



第27回 出土遺物（1/3）



写真21 11T遺構検出状況



写真22 2T土層断面

9 宮本広沢地区試掘調査

調査地 長岡市宮本町4丁目

調査面積 252.0 m² (対象面積 71,000 m²)

調査期間 平成20年10月16日～22日

調査担当 山智和也

調査に至る経緯 平成 20 年 8 月 22 日、越後ながおか農業協同組合営農經濟部営農企画課から、団体ほ場整備事業官本広沢地区の計画地における遺跡の有無について照会があり、協議を行った。団体営はほ場整備事業に係る発掘調査は平成 19 年度から行われており、平成 19 年度は今回調査地の北陸自動車道を挟んだ南側で調査が行われ、宮本前田遺跡が発見された。今回の調査地である宮本広沢地区には周知の遺跡は存在しないが、宮本前田遺跡に近接するため、試掘調査を実施し遺跡の有無を確認することとした。

調査地の概要 調査地は黒川左岸の水田中に位置する。周辺の段丘上には、縄文時代、古代及び中世の集落遺跡や塚群が確認されている。

調査の結果 2×4 mを原則としたトレンチを水田1枚につき1箇所、合計35箇所のトレンチを設定し、バックホウによる掘削を行った。地山は青灰色粘土である。15T・16T・18T・22T・23Tではいわゆるガソブ層が確認され、小規模の川や沢が形成されていた可能性がある。遺構は検出されなかつたが、遺物は1T・3T・5T・8T・11T・15Tから出土した。1T・3Tでは暗灰色粘土層から、5T・8T・11T・15Tのトレンチでは青灰色粘土層からの出土である。それぞれ破片資料で散在しているため、流れ込みと考えられる。出土遺物は、土師器、須恵器、窯壁、鉄滓であり、いずれも平安時代の所産と考えられる。近接する宮本前田遺跡では、古代のほか中世の遺物も確認されているが、今回の調査では確認されなかつた。窯壁、鉄滓が出土したことは、黒川上流あるいは周辺の段丘上に未発見の製鉄遺跡が存在する可能性を示している。

前述のとおり、遺構は確認されず遺物もまとめて出土しないことから、工事予定地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第28図 トレンチ配置図 (1/10,000)



写真23 8T土層断面



写真24 遺物写真



第29図 土壠柱状図(1/20)

10 柄堀地区確認調査

調査地 長岡市菅畠 調査面積 48.0 m²(対象面積 45,000 m²)
調査期間 平成 20 年 4 月 22 日～23 日 調査担当 小林 徳

調査に至る経緯 平成 19 年 10 月 24 日に長岡市科学博物館は長岡地域振興局及び長岡市柄尾支所建設課と中山間地域総合整備事業東谷地区のほ場整備事業地内の遺跡の取扱いについて協議を行った。この地域には 4 箇所の遺跡と未周知の遺跡が存在する可能性があり、ほ場整備地内において試掘・確認調査が必要であるため、数度の協議を経て、寺尾遺跡などの 2 つを内包する原工区より調査を行うことで合意し、春の田植え前に寺尾遺跡を、稲刈り後に大戸川南遺跡を含むその他の地域を調査することとなった。

調査地の概要 調査地は刈谷田川の右岸の河岸段丘上に位置し、背後に桑城山が控える。現在は緩やかな斜面上に、小区画の水田が営まれている。寺尾遺跡は縄文時代晚期の遺跡で、過去の改田工事中に土側などが出土したという。現在遺跡の範囲は東西に走る道路を境に段丘が 2 つに分かれている。周辺には大戸川南遺跡をはじめ、同一の段丘の縁辺部に縄文時代の集落が存在し、立地条件が良いことを窺わせる。

調査の結果 2 × 3 m のトレンチをバックホウにて地山層が露出すまで慎重に掘削した。その結果、遺物、遺構は検出されなかった。地山層となる自然縫を含む黄褐色土層はややばらつきがあったものの約 30～65 cm と比較的浅い深度で検出された。地元住民の話によると、現在の水田面を作るために切り盛りなどを行ったとの話もあり、それにより消滅したか、もしくは南側に遺跡本体が存在していると考えられる。よって、当該地は事業に影響がないことを事業者に連絡した。なお、稲刈り後に行う予定であった地点は、ほ場整備の計画が当初よりも遅くなつたため、次年度以降に行うこととした。



第 30 図 トレンチ配置図 (1/5,000)



第 31 図 土層柱状図 (1/20)



写真 25 調査地遠景

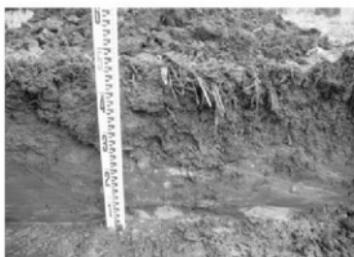


写真 26 4T 土層断面

11 長岡城跡（厚生会館地区）確認調査

調査地 長岡市大手通1丁目 ほか 調査面積 92.1 m² (対象面積 11,700 m²)
 調査期間 平成20年7月7日～9日 調査担当 烏居美栄

調査に至る経緯 長岡市の中心市街地再整備の検討に伴い、市役所機能を含む「シティホール」の建設が計画され、平成18年3月、長岡市都市整備部まちなか活性課（当時）と協議を開始した。事業地は既に市街地となっているが遺跡の残存状況が不明確であり、確認調査を行うこととなった。なお、公園の一部や市道部分については、平成21年以降の解体工事と合わせて確認調査を行うこととした。

調査地の概要 信濃川右岸の沖積地内にあり、標高は約21mである。中世には町屋が営まれ、17世紀初頭から長岡城及び城下町が築かれた。北越戊辰戦争によって城と城下町は焼失し、その後は市街地として開発が進んだため、現地表では土塁や堀は確認できない。事業地は、二の丸及び武家屋敷地にあたる。

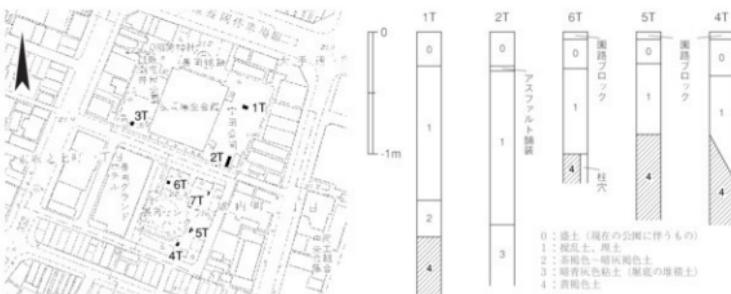
調査の結果 調査トレーンチは、二の丸と推定される位置に1T、二の丸の南堀の付近に2T・3T、武家屋敷地に4T～7Tを設定し、バックホウで掘削を行った。いずれのトレーンチでも近代以降の開発による搅乱を確認した。遺物は、近代以降のものと混在しているが、近世陶磁器片や瓦、木製品などが出土した。1Tは深さ1.4m付近まで搅乱されており、二の丸の郭内の遺跡は残存しないと判断した。2T・3Tでは堀底の堆積土と見られる暗青灰色粘土を確認した。6Tの調査区壁面において、深さ約1mに柱穴1基を確認した。良好な状況ではないが遺跡が残存すると判断し、事業担当課である長岡市シティホール整備室と協議を行い、武家屋敷地と堀などについて記録保存のための本發掘調査を行うこととなった。



第32図 調査地位置図 (1/10,000)



写真27 出土遺物



第33図 トレーンチ配置図 (1/4,000) 及び土層柱状図 (1/40)

12 長岡城跡（大手通中央東地区）確認調査

調査地 長岡市大手通1丁目 ほか 調査面積 56.0 m² (対象面積 210 m²)
調査期間 平成20年5月19日・27日～28日 調査担当 烏居美栄

調査に至る経緯 市街地再開発事業の一事業として商業ビルの建設が計画され、平成18年3月、長岡市都市整備部まちなか活性課（当時）及び事業主体である大手通中央東地区市街地再開発組合と、埋蔵文化財の取扱いについての協議を開始した。事業地の大部分は現存建物により遺跡は損壊しており、遺跡残存の可能性がある駐車場部分において確認調査を行うこととした。また、現存建物の軒体深度から堀底が残存する可能性がある部分については、平成21年秋以降の建物解体に合わせて確認することとした。

調査地の概要 周辺は明治時代以降に市街地として開発が進み、商業ビルなどが建ち並ぶ。調査地は平成8年の発掘調査で確認された大手門付近の堀跡の南東に位置し、大手門内側の武家屋敷地にあたる。

調査の結果 駐車場のほぼ中央に4×5mのトレーニングを設定し、その南側及び西側に3m幅の拡張を行った。掘削はバックホウで行った。アスファルト舗装の下に1.4×1.8mのコンクリート基礎が複数入るなど、調査地は深さ約1m、場所によっては深さ1.7mの搅乱を受けている。地山面で溝状や土坑状の落込みを検出したが、覆土は搅乱土と類似しており、時期や性格は不明である。搅乱土からは近現代の陶磁器片やガラス瓶などが出土し、少量ながら近世陶磁器片や硯、和釘なども出土した。近世陶磁器は、肥前系磁器の蓋をはじめとして18世紀後半から19世紀のものが多いが、17世紀初頭に製作された唐津焼の溝縁口縁皿なども含まれる。その後、掘削工事に立ち会った際には地山面で落込みは検出されなかった。



第34図 調査位置図 (1/5,000)

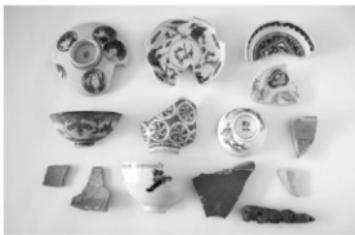
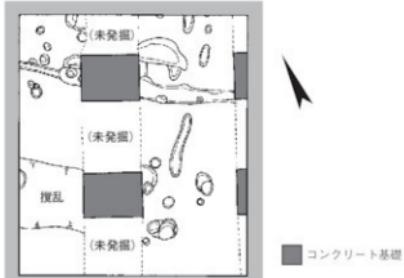


写真28 出土遺物



第35図 調査区平面図 (1/150) 及び土層柱状図 (1/30)

13 浦地区確認調査

調査地 長岡市神谷多賀屋敷 ほか 調査面積 58.7 m² (対象面積 4,784 m²)
 調査期間 平成 20 年 8 月 26 日～27 日 調査担当 新田康則

調査に至る経緯 市道越路 200 号線改良事業に係る埋蔵文化財包蔵地の取扱い協議は、その予定地に多賀屋敷遺跡が含まれることから、平成 16 年度の、計画初期段階から進めてきた。平成 19 年度に事業が具体化したため、調査を実施して遺跡の範囲を確認するとともに、周辺における遺跡の有無を確認することとした。

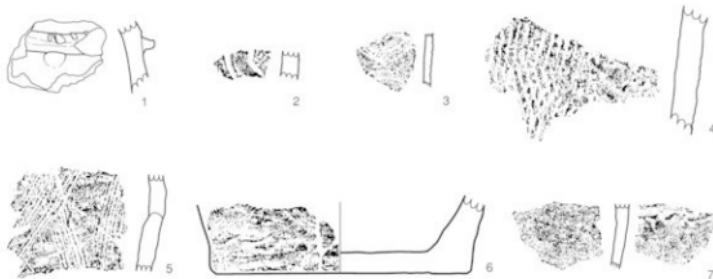
調査地の概要 調査地は信濃川左岸に形成された河岸段丘上(浦面)に位置する。また、多賀屋敷遺跡は縄文時代中期末葉～後期前葉の集落遺跡である。

調査の結果 合計 16 箇所のトレンチを設定して調査を実施した。3 T・4 Tにおいて、縄文時代後期初頭～前葉の遺物(土器・石器)と遺構を検出した。さらに、4 Tからは弥生時代末～古墳時代前期の土器片が 1 点出土している。恐らくこの地点が多賀屋敷遺跡の南縁に該当するものと推測される。第 37 図 1～6 は縄文時代後期初頭～前葉の土器である。1 はやや内傾する口縁部に加飾陣帶が付加される土器で、城之腰類型に分類されよう。2 は南三十稻場式の磨消縄文土器である。3 は堀ノ内 II 式土器。4・5 は深鉢の胴部破片で、三十稻場式～南三十稻場式土器の段階に位置づけられる。7 は土師器(甕)の胴部資料である。

調査の結果に基づき事業者との協議を重ねたが、現状保存は難しく、本発掘調査を実施する予定である。



第 38 図 トレンチ配置図 (1/10,000)



第 37 図 出土土器 (1/3)

14 小国西部地区試掘調査

調査地 長岡市小国町武石

調査面積 199.4 m² (対象面積 40,300 m²)

調査期間 平成 20 年 10 月 28 日～30 日

調査担当 新田康則

調査に至る経緯 県営は場整備事業の計画に先立ち、分布調査を実施した結果、少量ながら繩文土器片や土師器片が発見された。このため、工区全域を対象に、昨年度から工事予定に合わせて試掘調査を実施している。今年度は平成21年度工事予定地において調査を行った。

調査地の概要 調査地は渋海川左岸の丘陵縁辺～沖積地である。丘陵が渋海川に向かってせりだしているため、昨年度調査区域とは違い、調査区の西半域は傾斜地となっている。

調査の結果 切土工法が計画されている範囲を中心に24箇所のトレレンチ調査を実施した。8Tで柱穴底・15Tで杭列を検出したが、いずれも近世後期の肥前系磁器を作うことから、この時期の所産であると推測される。17T・24Tでも近代の陶磁器が出土したが、このほかの遺構・遺物は検出されなかった。以上の結果から、埋蔵文化財保護行政上の更なる措置は必要ないものと判断し、事業者にその旨を伝えた。



第38図 トレンチ配置図(1/7,000)及び土層柱状図(1/50)

参考文献

青柳孝司

2004 『長岡城を歩く』 新潟日報事業社

石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

1988 『シンボジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』報告編・資料編

小国町史編集委員会

1976 『小国町史』本文編 牧野功平（小国町）

越路町

1988 『越路町史』資料編 I 原始・古代・中世 越路町

越路町教育委員会

1983 『越路町文化財調査報告書第10輯 多賀屋敷遺跡発掘調査報告書』 越路町教育委員会

1993 『越路町文化財調査報告書第13輯 多賀屋敷遺跡—第二次発掘調査報告書—』 越路町教育委員会

寺泊町

1991 『寺泊町史』資料編 I 原始・古代・中世 寺泊町

1992 『寺泊町史』通史編 上巻 寺泊町

寺村光晴・久我勇

1960 『寺泊乃おいたち 先史遺跡について』 寺泊町教育委員会

島居美栄

2005 「長岡市富島町周辺における新発見の遺跡」『長岡市立科学博物館研究報告』第40号 長岡市立科学博物館

長岡市

1992 『長岡市史』資料編 I 考古 長岡市

長岡市教育委員会

1997 『長岡城跡発掘調査報告書 大手通り地下駐車場建設』 長岡市教育委員会

2002 『長岡市内遺跡発掘調査報告書 千代宗町地区』 長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

1975 『根立遺跡』 長岡市立科学博物館

1988 『根立遺跡』 三島町教育委員会

新潟県教育委員会

1976 『北陸自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 梶原敷遺跡 杉之森遺跡』 新潟県教育委員会

広井造・小熊博史

1999 『信濃川の歴史的意義』『長岡市立科学博物館研究報告』第34号 長岡市立科学博物館

分水町

2005 『分水町史』資料編 I 考古・古代・中世 分水町

2006 『分水町史』通史編 分水町

三島町

1984 『三島町史』上巻 三島町

和島村

1996 『和島村史』資料編 I 自然・原始古代・中世・文化財 和島村

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうねんなどがおかしないいせきはくくちょうさほうこくしょ					
書名	平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書					
副書名						
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	新田剛則・田中靖・鳥居美栄・小林徳・丸山一昭・加藤由美子・山賀和也					
編集機関	長岡市教育委員会					
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2番地1					
発行年月日	2009年3月19日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
よしへいたいせき 古竹北遺跡	ながのねしらごくたかほくわいせき	152021	1265 373639 373457	20090205 ~20090205	3.0m ²	県営は場整備事業
かくのひいせき 川東遺跡	ながのねしらごくとうわいせき	152021	1304 373451 1384631	20081218 ~20081219	72.0m ²	河川改修事業
すがのひいせき 杉之森遺跡	ながのねしらごくすぎのもりわいせき	152021	391 373232 1385223	20081022 ~20081023	114.0m ²	県営は場整備事業
かくのひいせき カジヤシキ遺跡	ながのねしらごくかじやしきわいせき	152021	401 373346 1385106	20081104 ~20081105	60.0m ²	県営は場整備事業
かくのひいせき 報音寺遺跡	ながのねしらごくほうおんじわいせき	152021	400 373415 1385128	20081104 ~20081105	84.0m ²	県営は場整備事業
ねだらいせき 根立遺跡	ながのねしらごくねだらいわいせき	152021	455 372914 1384643	20080917 ~20080919	54.0m ²	河川改修事業
ごくのひいせき 五百刈遺跡	ながのねしらごくごひゃくかりわいせき	152021	609 372834 1385342	20081006 ~20081010	140.0m ²	県営は場整備事業
したやくいせき 下屋敷遺跡	ながのねしらごくしやしきわいせき	152021	72 372739 1384655	20081125 ~20081127	75.0m ²	市道改良事業
でむれいせき 寺尾跡	ながのねしらごくてむれいわいせき	152021	659 372650 1390137	20080422 ~20080423	48.0m ²	県営は場整備事業
ながのねじゆかわ 長岡城跡	ながのねじゆかわじゆかわわいせき	152021	146 372649 1385104	20080519 ~20080709	148.1m ²	市街地再整備事業
たがやくいせき 多賀屋敷遺跡	ながのねしらごくたがやしきわいせき	152021	405 372701 1384747	20080826 ~20080827	58.7m ²	市道改良事業
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
よしへいたいせき 古竹北遺跡	遺物包含地	古代	ピット	土師器・須恵器		
かくのひいせき 川東遺跡	散布地	弥生～中世	溝	土師器・須恵器		
すがのひいせき 杉之森遺跡	遺物包含地	古墳	なし	なし		
かくのひいせき カジヤシキ遺跡	遺物包含地	中世	なし	なし		
かくのひいせき 報音寺遺跡	遺物包含地	平安～室町	なし	土師器・須恵器		
ねだらいせき 根立遺跡	遺物包含地	绳文	なし	绳文土器・石器・漆器・獸齒・植物遺存体		
ごくのひいせき 五百刈遺跡	遺物包含地	弥生・平安	溝・ピット	弥生土器・土師器・須恵器・漆書土器		
したやくいせき 下屋敷遺跡	集落跡	古代	溝・ピット	土師器・須恵器・鉄滓・砥石		
でむれいせき 寺尾跡	遺物包含地	绳文	なし	なし		
ながのねじゆかわ 長岡城跡	城郭	近世	礎・柱穴	近世陶磁器・木製品		
たがやくいせき 多賀屋敷遺跡	遺物包含地	绳文	土坑	绳文土器・石器・土師器		

平成 20 年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成 21 (2009) 年 3 月 19 日 印刷

平成 21 (2009) 年 3 月 19 日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社サンワプロセス
